

会報

第39号
2022年7月

* ご寄付を「受くるに足るものとならんため」——学園長 廣瀬 薫

恵泉フェロシップの皆様、いつも大きなご支援とお励ましをいただき、心から感謝申し上げます。ご寄付の領収書にお礼の一言を添えて書くたびに、ご寄付に込められた暖かい思いを想像し、感謝を新たにしています。

河井道先生関連の本や資料を読むと、学園を支える財政基盤のために、常に心を砕き続けていたことがうかがえます。例えば、「恵泉」誌の第一号の巻頭言には、学園の現状を紹介すると共に、「今この時間に別室では学園の維持会の委員が協議されています」とあります。誕生して間もない恵泉女学園が、他のミッションスクールのような外国のミッションボードの支えを持たず、そのために「維持会」の方々が、河井先生の部屋に隣接する部屋で、心を合わせて学園を財的に支える活動を進めていたことがわかります。その情熱を受け継いで、恵泉フェロシップの皆様が貴い活動を重ねて来られたことに、心から敬意を抱いています。

学園が常に財的支援を必要とする状況は、今も変わっていません。恵泉女学園は、学園を取り巻く支援者（あるいは、ファン、応援団、サポーター、…）からの財的ご助力無しでは、存在を永続できないのです。

その認識に立って、昨年より、寄付金に取り組む本部の態勢の強化に取り組み始めました。まずは基礎研究、他校との情報交換、専門家による学び、そして何よりも私たち自身の意識改革と真摯な実践を大切なことと考えて進めています。大学でも独自の寄付金募集活動が始まりました。ご案内に目を留め

ていただければ幸いです。

河井先生の上記の巻頭言は以下のように続きます。「多忙な婦人方ですが、財産も金主もないこの学園を維持せんがため新しく維持会員を募り、催物をして学園の経済を後援していただきます。…尊き捧物をしていただきます幾多の兄弟姉妹を持つ私共は、いかにも富んだ団体でございますが、私共はかかる恩恵を受くるに足るものとならんため、一同は心を合わせて毎日短い時間ではありますが、祈祷会を開いて、神の同労者に相応しきものたらんと祈り求めています」。

私たちの感謝と願いも同じです。河井先生が、支援者からの恩恵を「受くるに足るものとならんため」と、自らの身を引き締めておられたように、私たちも今の恵泉を前進させ、皆様のご期待に応え、寄付者ご自身に喜んでいただきたいと願っています。ご寄付によって恵泉の教育が維持向上され、平和を実現する生徒学生が育てられ、皆様に「寄付して良かった」と喜んでいただくことを目指しています。感染症や戦争によって痛む今の時代は、恵泉が担って来た良き教育をますます「世界の光」として広く高く輝かせることが求められる時代です。

恵泉のような使命を担い果たす私学の財政基盤は、学納金だけでは足りません。バランスの良いポートフォリオを、①学納金と、②補助金と、③寄付金と（アメリカならばさらに、④資産運用）で、構成することが必要です。学園と皆様が相互に喜び合う「フェロシップ」を、より充実させて行きたいと願っています。よろしく願いいたします。

* 2022年度募金テーマ *

恵泉フェロシップでは、毎年度募金テーマを定めて、募金活動を行っています。

2022年度の募金テーマは、右記のとおりです。毎年度お納めいただいている会費は、恵泉フェロシップ常任委員会にて募金テーマに配分させていただいております。いずれかの募金テーマへの用途を指定したご寄付も受け付けております。振込用紙ご利用で連絡欄にその旨の記載があるご寄付は、指定寄付としてお受けしております。インターネットを利用したクレジットカードによるご寄付や、古本募金も受け付けております。

(<https://keisenjogakuen.jp/donation/>)

2022年度募金テーマ

- ①大学生涯就業力教育のために
- ②大学障がい学生支援のために
- ③大学恵泉地域言語活動研究会のために
- ④大学国際交流・英語教育プログラムのために
- ⑤大学多摩キャンパス整備のために
- ⑥中高園芸教育のために
- ⑦中高芸術活動のために
- ⑧中高国際交流プログラムのために
- ⑨中高ICT教育推進のために
- ⑩中高校舎空調設備更新のために
- ⑪奨学金のために（中高・大学）
- ⑫学園史料室のために
- ⑬花と平和のミュージアムのために



* 2021年度活動報告 *

2021年度は恵泉女学園にとって節目の年度となりました。6月に長く学園を支えていただいた宗雪雅幸理事長と中山洋司学園長が退任され、7月より樋野興夫理事長と廣瀬薫学園長が就任しました。8年後に100周年を迎える学園のこれからの歩みを、新たな顔ぶれで進めてまいりますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

コロナ2年目の学園の諸活動は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出に対応しながら、学生・生徒の就学機会確保への期待に応えるよう努めてまいりました。校舎内の換気量の確保のため、空調機の更新は積極的に進め、対面での授業が安心して実施できるように考えております。ネットワーク環境の整備や電子黒板等のICT設備の整備は、2020年度に蓄積しましたオンラインを使った授業や国際交流のノウハウの良さを従前の授業方法に取り入れて活かすための重要な取り組みであり、これにより一層効果的な授業展開ができるように目指してきました。皆様を楽しみにして

いただいております恵泉デーにつきましては、気軽にご来校いただける形での開催には至らず、制限付きのものとなりましたことお詫びいたします。今後感染症の状況を確認しながら徐々に戻していき、また皆様にご来校いただけるようにしていきたいと思っております。

このような学園の活動に対しまして、2021年度も皆様より多くのご支援を賜り、恵泉フェロシップには約1,125万円のご寄付をいただきました。特に年会費をいただいております会員の方々のお支えには、心より感謝申し上げます。お預かりしました寄付につきましては、一部特定資産の取り崩しを加えて以下「2021年度寄付金配分状況」に記載しましたとおり、学生・生徒の学びを支えるため、またこれからの教育研究活動充実のための事業に用いさせていただきました。

2022年度も皆様のご支援に応える活動を続けてまいりますので、変わらないお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



* 2021年度寄付金配分状況 *

奨学金のために	102万円	(大学 恵泉会他からの使途指定分)
奨学金のために	112万円	(中高 恵泉会他からの使途指定分)
生涯就業力教育のために	150万円	(大学)
国際交流・英語教育プログラムのために	50万円	(大学)
恵泉地域言語活動研究会のために	30万円	(大学東京ゾンタⅡからの使途指定)
障がい学生支援のために	25万円	(大学)
多摩学生環境整備のために	200万円	(恵泉会他からの使途指定分)
蓼科ガーデンのために	8万円	(指定寄付)
中高園芸教育のために	50万円	
中高芸術活動のために	100万円	(課外活動補助)
国際交流プログラムのために	20万円	(中高)
ICT教育推進のために	100万円	(中高)
校舎空調設備更新のために	130万円	(中高)
学園史料室のために	100万円	
花と平和のミュージアムのために	100万円	

合 計 1,277万円

2021年度の恵泉フェロシップの特定資産は、恵泉フェロシップ対象事業として上記の1,277万円の実施に伴い、2021年度にいただいたご寄付等11,254,943円を用い、また特定資産より1,151,057円を取り崩しました。この結果、恵泉フェロシップ特定資産の残高は右のとおりとなりました。

《恵泉フェロシップ特定資産残高》

2020年度残高	73,870,479円
2021年度特定資産の取崩	1,515,057円
2021年度残高	72,355,422円



大学の2022年度事業計画について

コロナ禍で不安定な状況下が続く中、昨年度も学生・保証人の皆様のご理解を得ることに努めながら、教育活動を継続することができました。原則全授業対面実施で始まった4月でしたが、緊急事態宣言発令で全面オンライン授業への切り替えを余儀なくされました。ただし、まん延防止等重点措置に移行した6月下旬からは実技・実習科目を優先して対面授業を実施・継続、秋学期もその方針を踏襲いたしました。11月4日からはほぼ全ての授業が対面実施を再開し、秋学期を終了することができました。これも学園に連なる皆様のお祈りのおかげと感謝申し上げます。

今年度も学生達の学びの保証と支援を最優先に考えスタートいたしました。とりわけ多くの国で渡航レベルが引き下げられ、海外派遣プログラムが実施できる見込みとなっておりますことは、明るいニュースでございます。昨年度実施できた海外派遣プログラムは韓国協定留学のみでしたが、オンラインで行われた語学研修でも充実した学びを得られ、留学再開への期待を高めた学生達もおります。フィールドスタディは同様の課題を抱える国内地域で実施され、国・地域を超えて共通する社会問題に向き合

う視点の広がりを得ました。大学としても学びを保証する新たな方法を得られ、この実績を基にコロナ第7波を注視しつつ今年度の各種実体験学習プログラム実施の準備を進めているところでございます。

また、今年も世界大学ランキング日本版「国際性」分野で6年連続・首都圏女子大で第1位の評価をいただきました。世界大学インパクトランキングでは、SDG5（ジェンダー平等）で高順位を維持しております。大学の取り組みに対するこのような外部評価が、学生達の自信と誇りを醸成することにつながればと願い、種々の成果を学内外へ発信してまいります。

社会に巣立つまでの学生時代が充実したものとなり、目標を叶えていけるようにしっかりと守り支えていきたいと存じます。また学生・教職員だけでなく、訪問される多くの皆様にとって安心して過ごせる居場所とすべく、補修・改修等整備も引き続き丁寧に進めてまいります。不安なく学び過ごせる環境であり続けられるように、学園関係の皆様にはなお一層のお祈りとお励まし、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

大学事務局長 舘野 英樹



中高の2022年度事業計画について



会員の皆様には、日頃からのご支援に心より感謝申し上げます。

中高では201名の新入生を迎え、2022年度をスタートさせることができました。今年度も新型コロナウイルス感染症対策に心を配る日々は続いておりますが、対面授業、クラブ・課外活動、スポーツデーの実施など通常の学校生活を取り戻しつつあり、今夏の学年宿泊行事やクラブ・課外の合宿なども予定されております。

中高では、「聖書・国際・園芸」を生徒の知性・感性・社会性を育てる恵泉教育の特色と位置付けて教育活動を展開しております。その中で、生徒の学力の確保・学びの支援のため、2022年度からの高校新学習指導要領に則った新カリキュラムにおける授業研究を行い、生徒の学力の深化を図っています。また、夏期・冬期・春期講習とS-parkに加え、2021年度から始まった放課後自習室や家庭学習補完のアプリケーションなど、生徒の学ぶ意欲に応える取り組みを整備、拡充しています。理科探究実験や課外サイエンスアドベンチャーの成果発表としてサイエンスデーを実施し、生徒の理系教科への興味を引き出す工夫も行っています。

皆様のご支援により整備がすすめられた電子黒板等のICT設備については、それらを用いた教育方法を研究し、学内で積極的に活用しています。また授業

のみならず、大人数で集まることが難しい状況が続く中、礼拝や保護者会、信和会活動などの中継でも大いに利用されています。

コロナによる渡航制限のため途絶えていた留学生の受け入れも再開し、今年度はハンガリーとカンボジアから2名の留学生を迎えています。一方、恵泉生のオーストラリアへの3か月間の中期留学も3年ぶりに計画されています。2018年に交流を開始したタイのTakhliprachasan schoolとは、日本語履修生徒とのオンライン授業が8月に予定されています。これらの交流活動が多様な文化・価値観の中で互いを認め合い、尊重し合うことを学ぶ機会となることを願っています。

進路探求の一環として、昨年の順天堂大学に続き、6月に東京女子大学との高大連携協定に調印いたしました。今後も生徒の探究的学びを後押ししていきたいと考えております。

中高では、入学した生徒を6年間大切に育て、グローバル社会において、不確実な時代を他者とともにしなやかに誠実に生きていく、人間力を備えたピースメーカーの育成を目指しています。社会の変化に対応しつつ、より良い教育を継続していくことができますよう、今後ともご支援をお願い申し上げます。

中高事務長 滝島 陽子



* 学校法人恵泉女学園2021年度決算の概要について *

詳細な決算の内容につきましては、学園のホームページ内の事業報告書 (<https://keisenjogakuen.jp/gaiyo/business-report/>) および決算 計算書類 (<https://keisenjogakuen.jp/gaiyo/financial-statements/>) をご覧いただきたいと存じますが、ここでは概略にてご報告いたします。

事業活動収支計算書 (単位：百万円) 前年度比

教育活動収入	2,914	152
教育活動支出	2,949	170
教育活動収支差額	-35	-18
教育活動外収入	11	-1
教育活動外支出	1	-2
教育活動外収支差額	10	1
経常収支差額	-25	-17
特別収入	94	42
特別支出	36	32
特別収支差額	58	10
基本金組入前収支差額	33	-7
基本金組入額	-107	185
当年度収支差額	-74	178

貸借対照表 (単位：百万円) 前年度比

資産の部	15,189	-168
有形固定資産	10,048	-49
特定資産	3,332	-25
その他の固定資産	304	98
流動資産	1,505	-192
負債の部	1,106	-201
固定負債	686	-80
流動負債	420	-121
純資産の部	14,083	33
基本金	18,624	107
繰越収支差額	-4,541	-74
負債及び純資産の部合計	15,189	-168

収支の状況は、事業活動収支計算書にて表されております。前年度比で収支とも大きく増加しておりますが、そのうち収入・支出双方約100百万円は退職者に係る人件費の増加とその原資となる外部資金からの収入によるものです。その他の一般的な要因としまして、収入の増加は在籍学生生徒数の増加に伴うものです。支出の増加につきましては、前年度のコロナにより学生生徒がキャンパスを利用できなかったこと等による一時的な支出の減少が回復したことが要因の一つです。その他、ご寄付のテーマとさせていただきましたネットワーク環境や校舎空調設備の更新に伴う支出、減価償却の増加などがありますが、これらの事業の実施に伴う補助金収入が特別収入に計上されています。その結果、短期的な収支を表す基本金組入前収支差額は、前年度より減少はしましたが収入超過となっております。これに、学校法人が永続的に保持すべき資産の増加としての基本金組入額107百万円を控除した、当年度収支差額は74百万円の支出超過でした。

財政状態を、貸借対照表からご説明します。有形固定資産の減少は、新たに取得した資産よりも減価償却及び更新資産の除却が大きかったことによるものです。恵泉フェロシップ特定資産は、資産の部の特定資産に含んで計上しています。資産全体としましては前年度比168百万円減少しておりますが、負債も201百万円減少しております。その結果純資産は33百万円の増加となっております。健全な財政を維持できるよう、引き続き努めてまいります。

会費・寄付金のお振込み先は下記のとおりです。

名義 学校法人 恵泉女学園
 ゆうちよ銀行 00160-4-20588
 三井住友銀行経堂支店 (普)5237180
<https://keisenjogakuen.jp/donation/#fero>

恵泉フェロシップ会報 第39号

発行日 2022年7月29日
 発行 学校法人恵泉女学園
 編集 恵泉フェロシップ事務局
 156-8520 東京都世田谷区船橋 5-8-1
 Tel:03-3303-2111 Fax:03-3303-2323